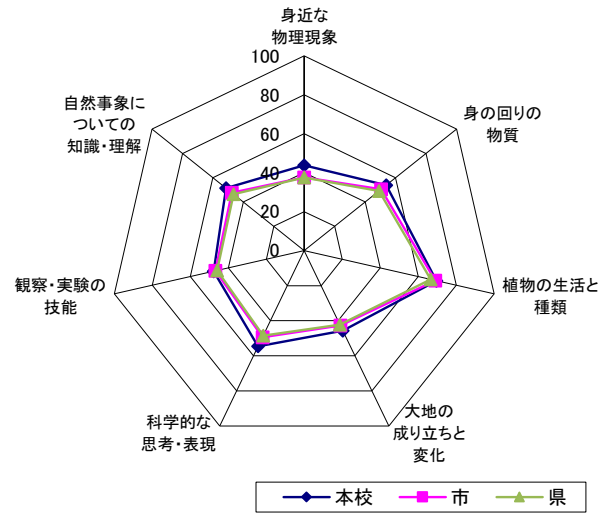


宇都宮市立星が丘中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	43.8	37.6	37.5
	身の回りの物質	53.9	50.5	49.1
	植物の生活と種類	69.6	69.0	66.6
	大地の成り立ちと変化	45.6	42.7	42.2
観点	科学的な思考・表現	54.6	49.4	48.5
	観察・実験の技能	47.7	46.8	45.9
	自然現象についての知識・理解	51.4	47.6	46.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	○市や県の平均を6～7ポイントほど上回っており、特に「光と音」が10ポイント近く、上回っており、物理現象についての知識が身に付いている。 ●「光と音」の範囲のスクリーンに映る像を推測する問題では正答率が低くなっていることから、科学的な知識を活用する力が必要であることがわかる。	・実験、観察から科学的な知識を身に付けることはできているが、今までに学んで身に付けた知識を活用し思考することが苦手である。そこで、知識を活用し、探究的な学習や応用的な学習を取り入れたり、作図や演習問題を更に取り入れたりすることで、知識を活用する場面を増やし、科学的な根拠から解答を導き出す力を身に付けさせるよう指導していきたい。
身の回りの物質	○市や県の平均を3～4ポイントほど上回っている。単元もそれぞれの平均を上回っているのので、おおむね知識が身につけているといえる。 ●質量パーセント濃度を答える問題など数値が出てくる問題では、正答率が低めだった。	・意欲的に実験、観察に取り組む反面、実験器具の操作方法、順序を正しく身に付けていない生徒が多い。ガスバーナーなどは操作方法の試験を行って定着を図っているが、今後も重点課題として取り組んでいきたい。水溶液については、計算式や語句、性質など覚えなければならないことがたくさんあるので、小テストなどをこまめに行い、定着を図るよう、指導していきたい。
植物の生活と種類	○県の平均は3ポイント、市の平均とはほぼ同等である。どちらも平均を上回ってはいるので、基礎的な力、活用する力が身に付いている。 ●「生物の観察」の範囲の問題については市や県の平均を6ポイント程下回っている。	・スケッチの際の正しい方法については1年生の最初の段階で指導する内容である。基礎的な部分でありながら、正答率が低いので、より丁寧に時間をとって指導に当たりたい。生物全般において、地域柄、生物との接する機会が少なかった生徒が多く、経験を少しでも増やせるよう指導に当たりたい。
大地の成り立ちと変化	○市や県の平均を2～3ポイントほど上回っている。どの問題においても正答率が上回っているため、学力の定着はしている。 ●柱状図から地層の変化についての正答率が低めである。	・基本的な知識はおおむね身に付けていることができていたので、図やグラフなどから考えて解答を導き出す部分が弱い傾向がある。そこで、科学的思考を活用する時間を多くとり、自ら考え、答えを導き出す時間を増やし、演習問題などを解く時間を多めに取り入れていきたい。